

I 「この方において私たちは、その血による贖い、罪の赦しを受けています。これは神の豊かな恵みによることです」：7。

1. 「この方（御父が愛され尽くされた方・御子）において」：

御子イエスを信じ、霊的に結合されて、御子の中において。

2. 「私たちは、その血による贖い、罪の赦しを受けています」：

「を受けています」は現在形。現に今、喜び受けている祝福。「その血による贖い」。

贖うの意＝買い戻す。土地や人間が最初の持ち主から他の人の手に渡ったものを、お金を払って買い戻す（レビ25：25－27、48）。

もともと私達は神のものだった。しかし私達は神に罪を犯し、神のもとを離れ永遠の滅び、刑罰に向かっていった。しかし神は私達を憐み御子の十字架の血という代価を払って（悪魔に対してではなく、罪の刑罰の権利を持っておられる神ご自身に）、私達を永遠の刑罰から買い戻して下さった。神のものとして身受けして下さい。

3. 「その血による」：

「やぎと小牛との血によってではなく、ご自分の血（十字架で流された血）によって、ただ一度、まことの聖所に入り、永遠の贖いを成し遂げられたのです」（ヘブル9：12）。御子の血とは御子の命。「人の子が来たのも…贖いの代価として、自分のいのちを与えるため」（マルコ10：45）。「肉のいのちは血の中にある…いのちとして贖いをするのは血である」（レビ17：11）。「罪の赦しを受けています」：現在形。私達は、日々、自分の罪を赦され続けている。感謝します。罪の赦しがあって初めて、神との親しい関係が持てる！

4. 「これは神の豊かな恵みによることです」：

神の豊かな恵み＝①罪の奴隷（ヨハネ8：34）、死の恐怖の奴隷（ヘブル2：15）

であった私達を「ご自分の子」にしようと決めて下さった。

②私達自身が神に罪の一切の償い代を払うべきなのに、

御子のご自身の血によって払われた。ご自身を神に奉げて下さった。

③私達の罪の償いは、神の愛をきわみまで受けておられた

御子キリストのいのちそのものでした。

④神はこの愛する御子の犠牲を受け入れて、私達に「罪の赦しを」

宣言して下さいのです！

「子よ。しっかりしなさい。あなたの罪は赦された」（マタイ9：2）。

これは、今も、私達に語られているのです。

II 「この恵みを、神は私たちの上にあふれさせ、あらゆる知恵と思慮深さをもって、みこころの奥義を私たちに知らせてくださいました」：8，9。

神の恵み、奥義を私達に知らせて下さる霊的祝福。

私たち人間は自分の罪ゆえに霊的に盲目となり、真理を理解する力、悟りを失っていた。

「悟りのある人はいない。神を求める人はいない」(ローマ3：11)。

しかし恵み深い神は、私達に知恵と思慮深さ、悟りを与え「みこころの奥義」を知らせて下さいました。

「奥義」＝①今までは人が知ることができない秘密、隠されたものであったが、今は、主とその宣教によって、あらゆる国々の人々に知らされた真理、みこころ(ローマ16：25, 26)。

神が悟りを与えられなければ理解できない真理。

②「神は聖徒たちに、この奥義が異邦人の間にあってどのように栄光に富んだものであるかを、知らせたいと思われたのです。

この奥義とは、あなたがたの中におられるキリスト、栄光の望みのことです」(コロサイ1：27)。

「愛によって結び合され、理解をもって豊かな全き確信に達し、神の奥義であるキリストを真に知るようになるためです。

このキリストのうちに、知恵と知識との宝がすべて隠されているのです」(コロサイ2：2, 3)。

Ⅲ「それは、この方(御子)にあって神があらかじめお立てになったみむね(御好意)によることであり」：9。「時がついに満ちて、実現します」：10。

もろもろの時、時代の満期の管理、整理、手配、計画を神は支配されている。

神が支配されている時がついに満ちて、神の救いのご計画が実現します。

私達の願う時は、多くの場合、「すぐに」です。

しかし、神の時は、すぐにではなく、待つ時が必要であり、神の時がついに満ちて、神の御業、御心が実現します。

ですから、あせらず、あわてず、あきらめずに、忍耐をもって祈り続けましょう。

Ⅳ「いっさいのものが、キリストにあって、天にあるもの地にあるものがこの方にあって、一つに集められるのです」：10。

「一つに集められる」(原語：要約する、一つにまとめる)＝

①一つに統合される。やがてありとあらゆる出来事や存在が一つに統合される。その中心がキリスト。

②支配のもとに服する。この原語は、「頭、かしら」と言う語源からできている。やがてはあらゆるものが、かしらである(エペソ1：22)キリストの御支配の下に服する。

③いっさいのもの、天にあるもの地にあるものの意味を分からせるお方がキリスト。

キリストに焦点を合わせて見る時、意味を教えられる。

歴史のどんな時代も、一生のどんな時期も、天と地のどのような出来事も、キリストという神の奥義から離れては、意味をなさない。

しかし、みこころの奥義であるキリストを知らされ、キリストに焦点を合わせてみた歴史と人生と世界は、統一ある意味をもって私達のものとなるのです。

※ある著者の言葉

「霊的な生き方をするには、心の変化（聖霊による）、つまり回心（自分の罪を認め神に立ち返る）を必要とします。そのような回心は、急な内面の変化として現れることもあれば、長い時間をかけた穏やかな変化のプロセスである場合もあります。

けれども、どんな場合であっても、一つにまとまる心の内の経験と関わりがあります。

人生が統合されて見えてきます。私たちと共におられる神の命の奥義の部分として、すべてのことがことごとくおさまるべき所におさまる様子が、そこから見えたり理解できるようになります。私たちの葛藤や苦痛、なすべき課題や約束、家族や友だち、活動や事業計画、希望や抱負などが、手に負えない消耗させられる種々雑多なものではなく、自分のうちに住まわれている聖霊による新しい命を肯定するもの、掲示するものとして受け止められるようになります」。

キリストを知らせていただくことによって、「あらゆる知恵と思慮深さ」において、恵みをあふれさせていただいた（：8）ことを感謝し、心から神ご自身をほめたたえます！